

9. 原発事故被災地の子どもたち対象の保養キャンプ実施

グループ名 びわこ☆1・2・3 キャンプ実行委員会

代表者 藤本 真生子

① 活動の目的

東日本大震災に伴う福島第一原発事故により環境が放射能で汚染され、安心して自然と触れ合うことができなくなった地域の子どもたちを対象に、自然豊かな滋賀で自然体験中心の長期保養を企画しました。大人よりも放射能の影響を受けやすい子どもたちを、少しでも放射能の影響下から解放し、無農薬、無添加の安心、安全な食事と元気に遊ぶことで健康と体力を増進させ、心身ともにリフレッシュすることが第一義の目的です。

また、共同生活を通して自主自立を促し、協力する楽しさや大切さを気づかせること、一人一人が活躍できる場を設けることで自己肯定感を高め、食育や防災のお話会を通して自分の身の守り方、生き方を考えられるように育成することも目的としています。

② 活動概要

東日本大震災に伴う福島第一原発事故で大量の放射性物質が飛散し、福島県をはじめとする東北から関東までの広い範囲にそれまでより高線量の地域ができてしまいました。自然体験や思いっきり体を動かして遊ぶことは子どもたちの健やかな成長に欠かせないものですが、それらの地域に暮らす子どもたちは安心して自然と触れ合ったり、屋外で自由に遊んだりすることが難しくなりました。

また、成長期の子どもは大人よりも放射線に対する感受性が高く、健康を心配する保護者も多いため、子どもたちをできるだけ放射線の影響下から遠ざけることが必要と考えました。そこで2012年2月、思いを同じくする友人知人たちが集まって、これらの地域の子どもたちを対象とした、自然豊かな滋賀での自然体験中心の施設滞在型長期保養キャンプを計画しました。そして2012年3月の春キャンプを皮切りに、今春で16回の保養キャンプを開催し、子ども718名、大人162名の延べ880名を受け入れました。

実行委員会のメンバーは、年間2回（春は約10日間、夏は約30日間）のキャンプを行うにあたって、毎月1回以上のミーティングを行い、メーリングリストも利用して企画立案と情報交換を行っています。

保養キャンプの実施は、学生や地域住民などにボランティアを多数募り、子どもたちの見守りや食事の準備や生活・危機管理を行っています。毎年のキャンプには、春は約50名、夏は約75名の子どもたちの参加があり、それぞれの季節や開催地の地の利を活かした活動（野草摘みやお花見、琵琶湖遊泳、山歩き、川遊び、飯盒炊さんなど）を入れています。今春のキャンプでは、サイクリング、ピザ作り、野草摘み、味噌作り、餅つき、ハイキング、ちぎり絵ワークショップ、エイサーとライブコンサート、食育のお話会などを行いました。

びわこ☆1・2・3 キャンプ in2018 春（第16回）実施概要

実施期間：2018年3月24日(土)～4月4日(水)

宿泊施設：白藤学園マキノ研修センター(滋賀県高島市マキノ町新保 1132)

参加人数：57名

＜年齢層＞子ども 54名…未就学児2名、小学生41名、中学生8名、高校生3名

成人1名 保護者2名

＜地域＞子ども…福島県35名、宮城県3名、秋田県2名、新潟県2名、栃木県4名、埼玉県2名、
千葉県1名、東京都3名、神奈川3名

保護者…宮城県1名、埼玉県1名

交通手段：新幹線および在来線

月 日	午 前	午 後	夜
3月24日(土)		12:16 福島発	18:29 近江中庄着
25日(日)	オリエンテーション	サイクリング・野草摘み	21時～中学生ミーティング
26日(月)	11時～ドラム缶ピザ	15時～守田敏也さんお話し会	
27日(火)		温水プール&温泉	
28日(水)	味噌作り教室	体育館	
29日(木)	餅つき ふみんちゅライブ	体育館	
30日(金)	希望者健診(坂本)9時半～12時半	体育館	
31日(土)		体育館	
4月1日(日)	ちぎり絵WS	体育館	
2日(月)	花見(膳所公園)・お土産等買物・びわ湖子どもの国		
3日(火)	大掃除、荷物整理	サイクリング	お楽しみ会
4日(水)	8:18 近江中庄発	14:16 福島着	



膳所城市公園でお花見



サイクリング

高島市マキノ町メタセコイア並木で



福島では放射線量が高く、木登りはできないので、子どもたちにとっては貴重な体験。



みんなで摘んだツクシの掃除。
野草も佃煮や天ぷらになって食卓にあがる。



食事準備のお手伝い



後片付けのお手伝い



味噌作り

食の大切さを学んで欲しいので、できる限り無農薬、無添加の食材を使った食事を提供し、子どもたちには、普段の生活での食事の準備と後片付けのほか、野菜の収穫、味噌作り、食育のお話会をします。お話を聴いたり、食事作りに関わったりすることで、苦手な野菜が食べられるようになる子や、食の安全性に関心を持つ子が増えています。

また、掃除、洗濯を当番制で行い、各自の学校の課題に取り組む勉強時間も設けています。



日課の掃除 きれいになると気持ちいいことに気づく



総勢 65 人分の洗濯物を丁寧に畳んで仕分けする。



勉強の時間 各自の課題に取り組む。

キャンプでは共同生活や様々な活動を通して子どもたちの自主自立を促し、協力することの大切さを学ぶ機会を作り、成功体験から自己肯定感が高められるようサポートしています。また、年長のリーダーが活躍する場を設けることでジュニアリーダーを育成しています。これにより、2017 年春キャンプから、高校生になった元参加者がボランティアとして協力してくれるなど、保養キャンプ運営の後継者の養成にも役立っています。

原発事故から 7 年が経ち、相次いで避難区域が解除になり帰還が促されるようになりましたが、環境中の放射能を完全に除染することは無理なため、多くの人々が不安な気持ちの中で生活しています。昨今、避難者児童へのいじめが表面化したように、被災地での放射能の危険性についての意識の違いは大きく、大人も子どもたちも人間関係に様々なストレスを抱えている実態があります。

保養キャンプでは同じような境遇の人たちが集まるので、気持ちを共有したり情報交換したりすることで自己肯定感が高まり、前向きに生きるきっかけになっています。「子どもたちを自然の中で思いっきり遊ばせたい」「健康に育って欲しい」という願いから始めた保養キャンプですが、参加者の心身のリフレッシュの場、心の支えの場になるよう、今後も継続していきたいと考えています。

③ 決算報告書 （助成対象項目のみ掲載）

収 入	大同生命厚生事業団助成金	1 0 0 , 0 0 0 円
支 出		
・会場賃借料（白藤学園マキノ研修センター）3 月 24 日～4 月 4 日 1 泊 1 人 1,000 円 11 泊（日により宿泊者数に変動あり） 参加者 子ども 54 名 大人 3 名 宿泊を伴うスタッフ 25 名 1,000 円 /人×延べ 713 人	7 1 3 , 0 0 0 円	
・シーツレンタル料 25,200 円+2,016 円(消費税)=27,216 円 内訳＞ シーツ ・ ・ ・ 100 円×120 枚 掛け布団カバー ・ ・ ・ 120 円×80 枚 ピロケース ・ ・ ・ 30 円×120 枚	2 7 , 2 1 6 円	
合 計		7 4 0 , 2 1 6 円